

2008年7月7日

報道関係各位

池上線における、列車進入直後の踏切遮断棹上昇事故について

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭）では、本日（7月7日）、池上線雪が谷大塚駅隣接の踏切において、列車が進入した直後に遮断棹が上がってしまうという事故が発生いたしました。

お客さま、近隣にお住まいの皆さまをはじめ、関係各位にはご心配、ご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

事故の詳細は下記のとおりです。

記

1. 発生日時 2008年7月7日（月）9時13分頃
2. 発生場所 池上線雪が谷大塚1号踏切（雪が谷大塚駅隣接・幅員8.1m）
（所在地：東京都大田区南雪谷2-2-16）
3. 事故状況
9時11分頃、雪が谷大塚駅下り線ホームから、蒲田方面の留置線に入庫するため動き始めた回送列車（3両編成）が、運転士の機器操作ミスにより踏切手前約40mの位置でいったん停止しました。なおこの時、列車前方の信号は進行表示（黄）となっており、当該踏切の遮断棹は下りていました。
当該回送列車の運転再開には時間がかかると判断をした信号係は、いったん回送列車前方の信号を停止表示（赤）に切り替えました。これに伴い当該踏切は、信号切り替え操作から約30秒後に遮断棹が上昇しました。
信号係が当該列車の運転士への連絡を怠っており、また運転士も信号が停止表示に切り替わったことを見落としていたため、信号切り替え作業から約25秒後に列車の運転を再開しました。
列車が踏切に進入した直後に、遮断棹が上昇しましたが、列車はそのまま踏切を通過しました。

列車が踏切に進入した直後に遮断棹が上がったため、踏切を通行している歩行者および自動車などはなく、列車との接触事故やけが人はありませんでした。
4. 原因
信号係が当該列車の運転士への連絡を行わずに信号切り替え操作を行ったこと、および運転士が停止信号を見落としたことが原因です。

5 . 対策

従業員に対し正則作業を徹底させるとともに、再教育を実施いたします。
また万一、こうしたヒューマンエラーが起きても未然に事故を防止できるよう、機械的なフェイルセーフの仕組みについて、早急に検討し、導入いたします。

以 上